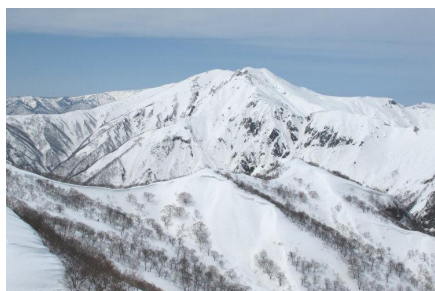
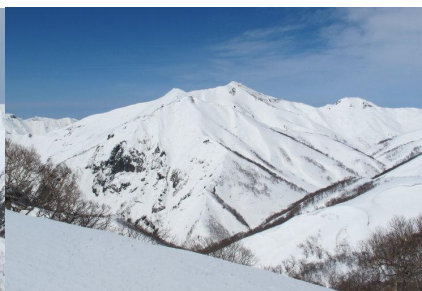


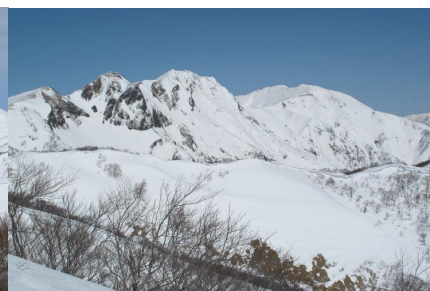
小出俣山山行記録



平標山と仙ノ倉山



東俣ノ頭と万太郎山



俎倉山稜と谷川岳

目的地	小出俣山 (赤谷山)	期 日	平成23年4月1日 (金)・終日快晴
山人	笠原正雄単独	特 記	残雪期限定の山。他に入山者無く、貸切り山行。

地点名	時刻	記 事
与板発	午前5:50発	越路 SIC から水上まで高速。魚沼地区では放射冷却で霧が濃い。
川古温泉手前 P	7:40~7:55	落石の多い林道を行く。除雪されたようで、路側に僅か雪が残るのみだ。晴れだが、風はやや冷たい。
右手に小さなダム湖	8:15	この先で雪に上がり、壺足で進む。踏み跡は分かるが、今日のものではない。
千曲平橋	8:45	左岸へ渡る。林道に踏み跡痕があるが、杉植林地で進路が分からない。林道を先に進み赤布のある所を左折して杉の急登に入る。途中でカンジキを履く。
オゼノ尾根に上がる	9:20	9:10に杉林登りを抜け出し雑木の支尾根の登りとなる。オゼノ尾根に上がる。
標高 1,000m 付近	9:25~9:33	腰を下ろして休む。無風で暖かい。踏み跡痕はあるような無いようなで不鮮明。
標高 1300m 付近	10:15~10:20	左のカンジキの後ろの引き上げ紐を少し長くする。
天然杉難所トラバース	10:32	落葉樹帯を登って来たが、ここに来て大径の杉が現れて傾斜が緩む。しばらくすると尾根の中央に杉と大岩が進路を遮っている。右の斜面に回り込み、雪を一步一步踏み固めながら慎重にトラバースする。再び落葉樹帯となる。
標高 1,400m 付近	10:45~10:53	この辺りで山頂が樹間から見えてきた。休む。
標高 1,600m 手前	11:12	ダケカンバを最後に森林限界のようだ。進むにつれ阿能川岳への稜線がよく見えてくる。その先に俎倉山稜と谷川岳の双耳峰が聳える。(写真右) 行く手にこんもりとした山頂方向が待っている。西側は雪斜面が急降下しているが東側は幾分緩やかで疎林となっている。左下に赤谷湖が見える。
小出俣山	11:45 着	ピークの台地に上がり少し先が最高地点。正面は平標・仙ノ倉、三国山への銃走路。白砂山方向、更に左に浅間山である。右を向き直して万太郎山を眺めながらランチタイム。風は僅かだが少し寒い。しかし、それが止むと背中が暑く感じるほどの日差しを受ける。地図を広げて山を眺める。谷川岳の奥に平ヶ岳、右に尾瀬の山、武尊、日光連山と展望は申し分ない。
下山へ	12:37	奥の方の沢で雪崩が起きたようだ。轟き音が聞こえて来た。上山時は気付かなかったがトレース痕が分かる。こちら側からだ樹木の赤スプレーが分かる。
難所トラバース	12:55	上山時より更に雪が腐ってきて、足場作りは容易だ。
支尾根上山地点	13:16	上がったトレースを左に見て、直進でオゼノ尾根を下る。踏み跡も分かる。下がるにつれ、所々地面が出て来る。
千曲平橋左岸たもと	13:30	ここから 250 歩ほど手前で杉林を抜け出し右へV字で林道に降りる。灌木に赤布等が下げられている。
ダム湖	1:55	除雪終点でカンジキを脱ぐ。
川古温泉手前 P	2:15 着	相俣でR17に出ると赤谷湖付近からこの山と俎倉山稜が見えた。



2年前の同時期に平標山から三国山を縦走した。そのことを山友K女史のブログで紹介してもらった。そこに群馬の方だろうか、この山のことをコメントした人がいた。それまでは全く知らない山だったが、気に掛かる山となった。谷川岳肩ノ小屋前から阿能川岳と小出俣山が連なるように見える。

今シーズンの目標としていた山である。従ってGPSデータは入力しておいた。この日一日だけ移動性高気圧が張り出す絶好天予報だ。チャンス到来である。前夜になって入山を決めた。

他に入山者があるだろうと思っていたが、誰もいなかった。オゼノ尾根上がり口のトレースを見逃してしまい、左図の黄線での登りとなった(赤線は下山)。天然杉付近を除いて登り一丁の尾根である。従って下りの時間は半分以下となった。谷川岳から平標山までの縦走路を一望できる素晴らしい展望を楽しんできた。